



小さなからだでピョンピョン跳ねるよ！

キリギリスのなかま 3種類

土の中で冬を越した卵は、春にふ化します。幼虫は、草のタネや花びら、小さな虫などを食べて大きくなります。幼虫たちを見分けてみましょう☆



ヤブキリ (幼虫)
背中の真ん中に赤茶色の線がある。



ニシキリギリス (幼虫)
背中がベタッと平ら。
真ん中に赤茶色の線がない。



ヒメギス (幼虫)
からだ全体が黒い。



ヤブキリ (成虫)
3.5cm。木の上で生活する。
夜に「シリシリシリ...」と鳴く。



ニシキリギリス (成虫)
3.5cm。明るい草むらで生活する。
昼夜問わず「チョンギース...」と鳴く。



ヒメギス (成虫)
2.5m。湿った草むらで生活する。
昼夜問わず「シリリリ...」と鳴く。

夏に成虫になります。幼虫の頃に比べて肉食性が強く、積極的に他の昆虫を襲って食べます。

文と写真：武智礼央

かしわ餅かしら

こどもの日には かしわ餅かしら
カシワの葉っぱ よく見たかしら

古代の書物に よりますと
包むほかにも お皿にしたの
聖徳太子が 使ったかしら
デザインも すてきじゃないかしら



カシワの木って どんぐりの木よ
今ごろ 若葉が育ってて
花は しだれて咲いてるかしら
秋には どんぐり豊作かしら

枯れた葉 春までぶらさがる
紅葉のあとも 落ちないで
新芽出るまで ねばるのかしら
次世代見たい 親心かしら



若葉と花

※かしわ餅にサルトリイバラのまるい葉っぱが使われることもあります。西日本は自然に生えているカシワが少なく、四国では、愛媛県にだけ生えているそうです。

文と切り絵：山口すみれ

とことこの合い言葉
センス・オブ・ワンダー

「センス・オブ・ワンダー」とは「神秘さや不思議さに目をみはる感性」のこと。誰もが持つ「豊かな心でいられる魔法?」です。
「沈黙の春」を書いたレイチェル・カーソン氏



今年こそカブトムシを見つけよう！

カブトムシ、一度は見つけてみたい虫。安全に気をつけながら挑戦してみましょ☆

- 成虫が見られる時期・・・7月下旬～8月上旬
- 一番活動する時間・・・20～21時ごろ



樹液が出ている木を見つける

- ・明るいうちに木を探す。
- ・クヌギやコナラ以外に、アキニレやタブノキ、ヤナギ類、カシ類などからも樹液が出る。
- ・昼間はカナブンやスズメバチ、チョウが来ていて目印になる。
- ・樹液の匂いをたよりに探す。
- ・深い森よりも道沿いなどにある。



果物をしかける

- ・熟したバナナやパイナップル。
- ・風通しの良い広葉樹の林に。
- ・写真は直接ぬりつけているが、ストックキングやペットボトルに入れて吊るしてもよい。



街灯やコンビニ、自販機の灯り

- ・山際で周りが暗いところ。
- ・LEDではなく白熱灯など。
- ・早朝でも見つかる。ハチなどもおらず安全な探し方。

※ 知り合いのモモ畑、スイカ畑などに夜～早朝入らせてもらい、腐った果実に来ているカブトムシを探すなどの方法もあります。

【注意】服装は長ズボンに運動靴（長靴推奨）。林にはマムシやハチ、マダニ、ムカデ等注意すべき生き物も棲んでいるので慎重に歩を進める。夜間、樹液にハチがいたら懐中電灯に飛んでくる可能性があるため無理せず諦める。

文と写真：武智礼央

シオカラトンボ ファミリーヒストリー

シオカラくんのおばあちゃんは、去年の夏の終わりに公園の池に卵を産みました。じきに卵から出てきたヤゴの1匹がシオカラくんのお父さんで、ヤゴのまま冬を越しました。

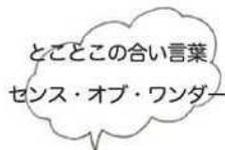
池の中でミジンコやイトミミズを食べ、13回くらい皮を脱いで、じわじわ大きくなりました。春のある夜、水から上がり、最後の皮を脱いで、茶色いトンボの姿になりました。そして1週間くらい、原っぱで遊んで過ごしました。すると体に白い粉がふいて、青っぽいカッコいい青年トンボになりました。よし、と思ったシオカラくんのお父さんは田んぼの水路をブンブン飛んでいますと、仲間のお嬢さんトンボに会いました。ムギワラちゃんです。運命。2匹は結婚して、ムギワラちゃんは水路に卵を産み落としました。じきに生まれたヤゴの1匹がシオカラ



オスのシオカラトンボ

くんで、水路で何度も皮を脱いでオタマジャクシまで食べてぐんぐん大きくなって、ふた月後の夏の夜、茶色いトンボになって、1週間イネの上を飛び回って遊んでいたら、白い粉がふいた青っぽいカッコいいシオカラトンボになって、よし、思ったシオカラくんは…（つづく）

文と切り絵：山口すみれ



「センス・オブ・ワンダー」とは「神秘さや不思議さに目をみはる感性」のこと。誰もが持つ「豊かな心でいられる魔法？」です。「沈黙の春」を書いたレイチェル・カーソン氏の言葉であり、著書のタイトルでもあります。



東温市小さな子どものおさんぽ会
主催：東温市環境保全課新エネ推進係
協力：NPO 法人 自然環境教育えことのは



バッタのからだをじっくり見てみましょう☆



クルマバッタ



カワラバッタ



クルマバッタモドキ



アカハネオンブバッタ

バッタの後翅

- バッタの後翅は、種類によって色々な色をしていたり模様があったりしてきれい。
- 止まっているときは扇子のように折りたたまれていますが、飛ぶときには広げてパタパタと羽ばたかせます。
- 少しコツがいりますが、手でそっと広げて観察することができます♪



ハネナガイナゴ

イナゴの「のどんこ」

○イナゴを見分けるにはのどんこ（赤丸で囲まれた突起）を見ます。ちなみにイナゴもバッタの仲間です。



マダラバッタ



トノサマバッタ

バッタの後脚

○バッタにはとってもカラフルな後脚をもった種類があります。ちなみに後脚の脛節（けいせつ）という部分です。

文と写真：武智礼央

モグラまめちしき歌 モグラ塚の上で、モグラ世界を想像しよう！

地面の土がもこもこ 見たことあるかな モグラ塚
ははーん この下トンネルあるね モグラは姿を見せないけどね
モグラがいるとこいい土さ ふかふかしてる きもちいい

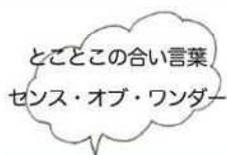
モグラは一匹オオカミで 一人暮らしをしてるんだ
田んぼくらいのけっこう広い なわばり守ってるんだって
寝る部屋あって トイレがあって あっちこっちにつながるトンネル

モグラのごはんはミミズや虫さ 畑の野菜は食べないよ
おながが空いたら虫探し お食事すんだら寝てしまう
モグラにとっちゃ一日が 二十四時間じゃないんだね 昼間も夜もないからね

モグラはどうして土の中
モグラを食べる動物が 土の中ならいないから
よく見つけたねえいすみか 真っ暗やみでもパラダイス



文と切り絵：山口すみれ



「センス・オブ・ワンダー」とは「神秘さや不思議さに目をみはる感性」のこと。誰もが持つ「豊かな心でいられる魔法？」です。「沈黙の春」を書いたレイチェル・カーソン氏の言葉であり、著書のタイトルでもあります。



東温市小さな子どもたちのおさんぽ会
主催：東温市環境保全課新エネ推進係
協力：NPO 法人 自然環境教育えことのは



寒いけどまだいる？アカトンボたち

トンボ科のうち「アカネ属」に属する種類がアカトンボと呼ばれており、日本で21種1亜種、愛媛県では16種類が確認されています。種類によりますが、成熟した成虫は9月～12月に見られます。



キトンボ

寒い日は、暖まった舗装道路や石、電柱などにペタッと止まります。



リスアカネ



アキアカネ



ミヤマアカネ

種類を見分けるには胸部の黒いスジ（黒条・こくじょう）の形を見るのが一番確実。よく観察すると結構違いがあります。



オオキトンボ

晴れた日の10～12時頃に、水辺に集まり産卵します。つながっていることが多いです。



リスアカネ



ミヤマアカネ



ネキトンボ

アカトンボの翅は、透明だけではなく種類によって先が茶色、先より少し手前が茶色、付け根が赤色など色々あります。ミヤマアカネやキトンボなど翅のスジ（翅脈・しみやく）まで色が付いているものは直射日光に照らされるととてもきれいです。

文と写真：武智礼央



アキニレの木の のぼりかた

大きなアキニレの あの高い枝の先までのぼりたいね
リスになってごらんよ
君はリスになっててっぺんまでのぼる
枝は細いけれどしなやかで 川原の強い風に負けないんだ
ねえ てっぺんはどんな景色？

大きなアキニレには おいしいタネが 秋に実るよ
小鳥になってごらんよ
君は枝から枝へ飛びまわる
小鳥ならもう夢中さ 冬のだいじな食べ物なんだ
ねえ おためしにどんな味？

文と切り絵：山口すみれ



このアキニレの木は なんて強い木だろうね
木になってごらんよ
暑くっても寒くっても こんなに大きくなった君
小さな生き物たちがたくさん 君を頼りにして生きてるんだ
ねえ 木っていいよね

とことこの合い言葉
センス・オブ・ワンダー

「センス・オブ・ワンダー」とは「神秘さや不思議さに目をみはる感性」のこと。誰もが持つ「豊かな心でいられる魔法？」です。「沈黙の春」を書いたレイチェル・カーソン氏の言葉であり、著書のタイトルでもあります。



東温市小さな子どものためのおさんぽ会
主催：東温市環境保全課新エネ推進係
協力：NPO 法人 自然環境教育えことのは



☆真冬の虫のを見つけ方☆

虫たちは、じっと身を隠して冬を乗り越えます。葉の裏や木の皮のすき間、落ち葉の中…虫採りは彼らとの知恵比べ。木の幹や枝にピタッと止まっているだけの種類もありますが、保護色なので見つかるかな？



茂みに古い傘を差し込み、枝で上から茂みを叩いて落ちてきた虫を受けます。



エサキモンキツノカメムシ



隅っこに溜まった落ち葉の下は適度な湿度で虫たちが隠れています。



ヒゲジロハサミムシ



すき間のある木の皮をそ〜とはがすと虫が見つかります。とくにケヤキとトウカエデは皮がはがれやすいです。



ウスキボシテントウ



木の枝や枯草の茎をじ〜と眺めると、卵やまゆ、しがみついているゾウムシなどが見つかることがあります。



イラガのまゆ



オオカマキリの卵しよう

文と写真：武智礼央

鳥はカラスとハトとスズメくらいならわかるという人のための

♡カワラヒワのを見つけ方♡



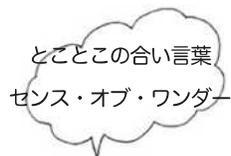
- 1.カワラヒワのネットの動画を探してみてもいい
- 2.鳴き声耳にたたき込んでみる
- 3.なるべく地味な 服を着て
- 4.公園 散歩に行ってみて
- 5.高い木がおすすめ 田んぼもねらい目
- 6.耳を すまして きいてみる
7. (チリリ チリリ チリリリリリ) × 2 ほうら

文と切り絵：山口すみれ



ラッパーの気分であって〜♪笑

- 8.スズメくらの大きさでよおっく見ると黄色っぽい
- 9.木の枝の先でチリリリリ冬なら群れできつーという
- 10.草の種とか食べる小鳥 知れば見つかる 多い小鳥



「センス・オブ・ワンダー」とは「神秘さや不思議さに目をみはる感性」のこと。誰もが持つ「豊かな心でいられる魔法?」です。「沈黙の春」を書いたレイチェル・カーソン氏の言葉であり、著書のタイトルでもあります。



① 黒色の地に紋がたくさん

② 橙色の地に紋がたくさん



③ 黒色の地に紋が4つ

④ 黒色の地に紋が2つ

ナミテントウ (8mm)

同じ種類の中にいろいろな模様をしたものがあります。大きくは上の「4つのパターン」に分けることができます。

ナナホシテントウが草むらに多いのに対して、ナミテントウは、木で見つかることが多いです。

文と写真：武智礼央

ナミテントウはもようがいっぱい♪

ナミテントウ以外にも探してみましょ



8mm ナナホシテントウ

幼虫

5mm

キヒロテントウ

6mm

ダンダラテントウ



ホトケのおネエとハコベ ~ホトケノザとハコベ~

道ばたのホトケノザは、懐の深いホトケのおネエと呼ばれています。

「ハコベ、あんたってかわいい花ね」と、ちょっと野太い声で、ホトケノザはハコベに声をかけました。ハコベは今、ぼつぼつと花が咲き始めたところ。これからどんどん伸びてきます。

ハコベが照れて、ぼそつと言いました。「ネエさんの花ってよおっく見ると複雑だね」「あらやだ、そうよう！」ホトケノザが低い笑い声を響かせました。赤紫の花は細長いつぼのフタが開いたような、ふしぎな形です。つぼの口の、小さな点々もようがおしゃれなのです。

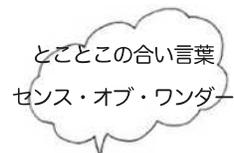
春先の陽ざしが、小さな草たちに降りそそぎます。

「ネエさん、オイラの花びら何枚だと思う?」「えっ?…10枚かしら」「ブー、ちがいます」「やだー、ほんとお?」

すると、隣のカラスノエンドウが「ぼく知ってる。5枚でしょ」と話に入ってきました。「うそお! どう見ても10枚よお!」

ハコベの花びらは何枚でしょう。よおっく見てちょうだいね。

文と切り絵：山口すみれ



「センス・オブ・ワンダー」とは「神秘さや不思議さに目をみはる感性」のこと。誰もが持つ「豊かな心でいられる魔法?」です。「沈黙の春」を書いたレイチェル・カーソン氏の言葉であり、著書のタイトルでもあります。



東温市小さな子どものおさんぽ会
主催：東温市環境保全課新エネ推進係
協力：NPO 法人 自然環境教育えことのは